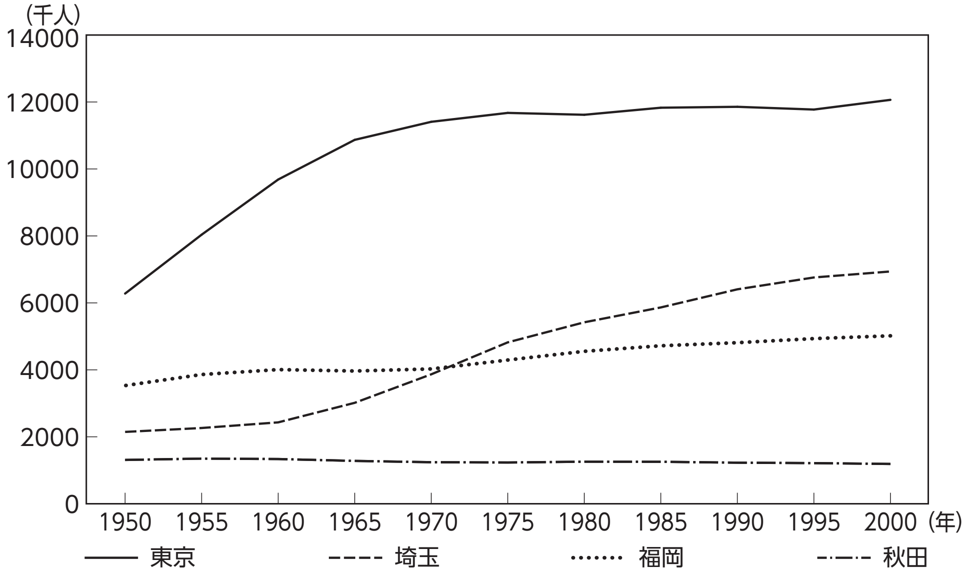
第 20 講 【持続可能な国土編】日本の国土
PART 2 持続可能な国土の探究

Chapter 1　統計の読み取り①

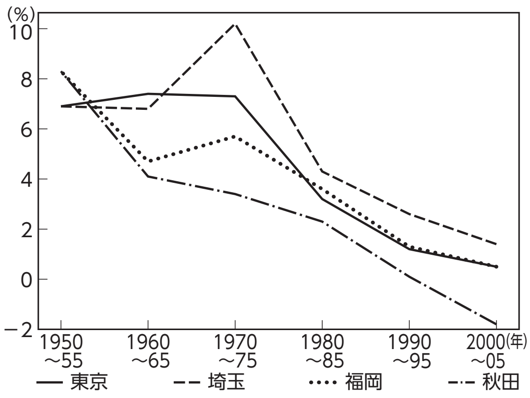
目標
自然増加率と社会増加率に着目し，日本の人口動態をとらえよう。
社会的な出来事と人口動態を関連づけて，考察しよう。

1 統計を読み取ろう

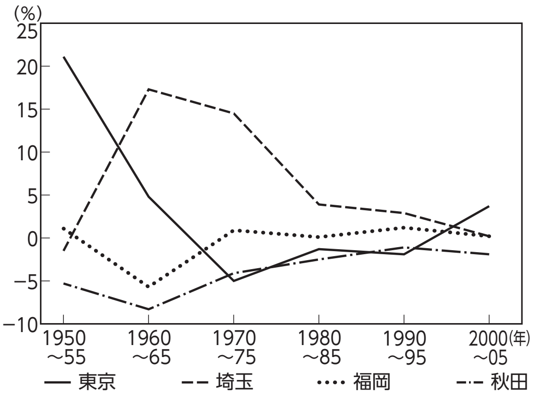


（グラフは全て，『数字でみる日本の100年』により作成）

東京都・埼玉県・福岡県・秋田県の総人口推移



自然増加率の推移



社会増加率の推移

2 統計から読み取れる情報を整理しよう

年代	統計から読み取れる人口動態	社会的な出来事
1950年～	・**東京**などの**都市圏**では，〔　　　　　　　　〕・〔　　　　　　　　〕がともに値が高く，急激に人口が**増加**。 ・**地方**では，**社会増加率**は**マイナス**であるものの，〔　　　　　　　　〕がプラスであるため，総人口の大きな変動は見られなかった。	1945年 終戦 1955年～ 高度経済成長期
1960年～	・**都市圏人口**が，さらに増加。 ・地方では，〔　　　　　　　　〕の値が減少したことで，総人口の〔　　　　〕も見られるように。	高度経済成長期
1970年～	・1970年代後半には，都市圏での人口増加が鈍る。**東京**では，人口〔　　　　〕も経験。 ・一方，**地方**では，〔　　　　　　　　〕が**上昇**し，**人口増加**となる地域も。	1973年 高度経済成長期の終焉
1980年～	・再び人口が，**都市圏**へ集まり始める。特に**東京一極集中**の傾向が顕著になった。	1986年～ バブル景気
1990年～	・1990年代前半には，東京で再び人口の減少が見られたが，後半には再び回帰。	1991年 バブル景気の崩壊
現代	・**都市部**では，自然増加率・社会増加率が比較的高い値で，人口は〔　　　　〕を続ける。 ・**地方**では，自然増加率・社会増加率ともに低い値で，人口の〔　　　　〕が続く。	

3 統計の背景を考察しよう

・1960年代に，都市圏の人口が増えた理由を，以下の2つの観点から考えよう。また，それにより都市や農村ではどんな問題が生まれただろう。

→社会的な出来事との関連／都市の構成員（都市に住む年代層のバランス）

・1990年代に，東京で人口が減少→増加と推移した原因を，社会的な出来事との関連や，都市の老朽化の観点から考えよう。また，これにより，日本の都市圏や農村でどのような問題が生じているだろう。

まとめ

例：現代の地方では多くの若年層が都市へ流出してしまうため，子ども・高齢者の割合が高くなり，自然増加率がマイナスになる。

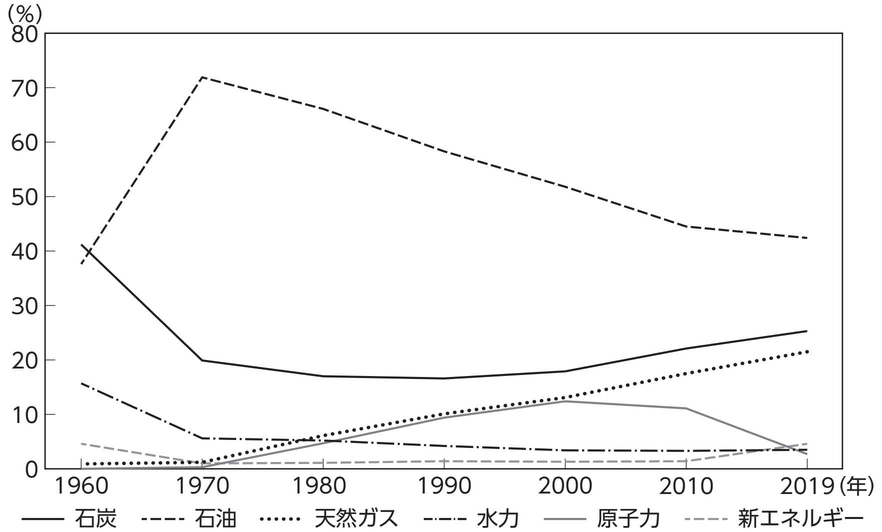
例：バブル経済の崩壊で地価が下がり，都心の再開発が進んだため，都心への人口回帰が起こった。

Chapter 2　統計の読み取り②

目標

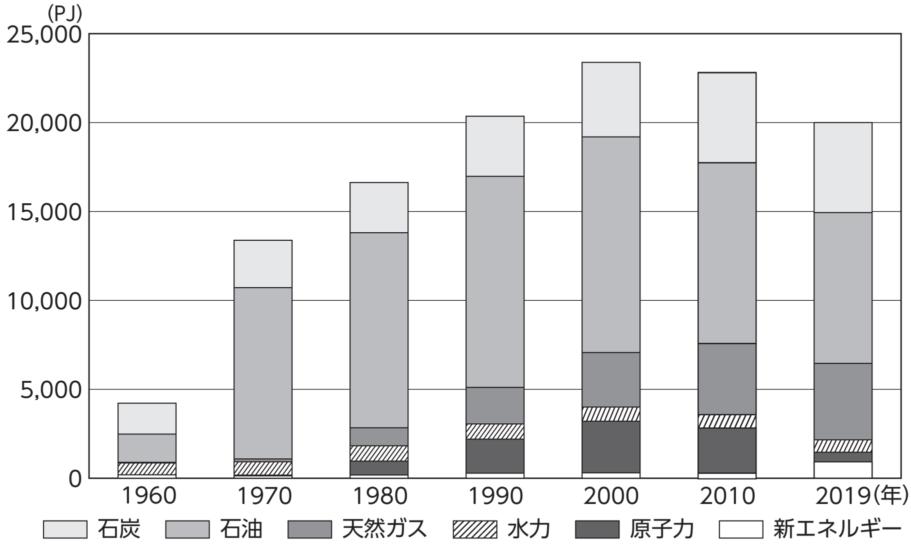
絶対値と相対値の違いに注意して，日本の一次エネルギー供給の推移を読み取ろう。
一次エネルギー供給量（率）の変化と社会的な出来事を，関連づけて考察しよう。

1　統計を読み取ろう



（『データブック オブ・ザ・ワールド 2022』などにより作成）

日本の一次エネルギー供給率



（『データブック オブ・ザ・ワールド 2022』などにより作成）

日本の一次エネルギー供給量

2　統計から読み取れる情報を整理しよう

・統計を読み取り，各文の正誤を考えよう。また，各年代の社会的な出来事と，エネルギー供給の変化について，関連づけて考えよう。

① 1960 年代のエネルギー革命により，石油が一次エネルギー供給の中心となり，以降，石炭の依存率・供給量は減少傾向となった。〔　　〕

＜石炭の依存率・供給量＞

年	依存率（%）	供給量（PJ）
1960年	41.2	1,738
1970年	19.9	2,661
1980年	17	2,818
1990年	16.6	3,380

② 1970 年代のオイルショックにより，石油に依存する供給体制が改められ，以降，石油の依存率・供給量は減少傾向となった。〔　　〕

＜石油の依存率・供給量＞

年	依存率（%）	供給量（PJ）
1970年	71.9	9,623
1980年	66.1	10,986
1990年	58.3	11,870
2000年	51.8	12,106
2010年	44.5	10,147

③現時点で新エネルギーによるエネルギー供給は少なく，今後の発展も限定的な見通しである。〔　　〕

＜新エネルギーの依存率・供給量＞

年	依存率（%）	供給量（PJ）
1990年	1.4	280
2000年	1.3	307
2010年	1.4	330
2019年	4.6	923

まとめ

例：エネルギー革命後，石油の依存率は低下したが，供給量は増加した。

例：2011 年の原子力発電所における事故の被害が甚大で，国内の多くの原子力発電所が稼働を停止。以降，新エネルギーの開発・普及が拡大した。

第 20 講　PART 2　確認問題

1 全国的に人口増加率が高く，人口が増えた年代は，以下のうちどれか。

① 1950 年代　② 1960 年代
③ 1970 年代　④ 1980 年代

2 東京などの大都市圏において，人口減少の傾向となった年代は，以下のうちどれか。

① 1950 年代　② 1960 年代
③ 1970 年代　④ 1980 年代

3 1960 年代に，多くの人口が地方から都市へ移動したきっかけとなった社会的出来事はどれか。

① 高度経済成長期による工業化の進展
② 高度経済成長期の終焉
③ バブル景気
④ バブル景気の崩壊

4 1990 年代後半に起こった，人口の都心回帰のきっかけとなった社会的出来事はどれか。

① 高度経済成長期による工業化の進展
② 高度経済成長期の終焉
③ バブル景気
④ バブル景気の崩壊

5 現在最も依存率の高い一次エネルギーはどれか。

① 石炭　② 石油
③ 天然ガス　④ 再生可能エネルギー

6 エネルギー革命が起こった年代は，以下のうちどれか。

① 1950 年代　② 1960 年代
③ 1970 年代　④ 1980 年代

7 脱石油を指向するきっかけとなった社会的出来事はどれか。

① 重工業の発達　② エネルギー革命
③ オイルショック　④ 東北地方太平洋沖地震に伴う事故

8 脱原子力発電を指向するきっかけとなった社会的出来事はどれか。

① 重工業の発達　② エネルギー革命
③ オイルショック　④ 東北地方太平洋沖地震に伴う事故

第 20 講　PART 2　確認問題 解答

1 解答：①

1950 年代は安定を迎えた時代であり，全国的に人口増加率が高く，人口が増えた。

2 解答：③

1970 年代には，景気の停滞・都市における雇用の減少を背景に，東京などの大都市で人口減少の傾向が見られた。

3 解答：①

1960 年代には**高度経済成長**と呼ばれる工業化の進展があり，多くの人口が地方から就業機会が多い都市へ移動した。

4 解答：④

1990 年代前半に**バブル景気の崩壊**が起こると，都心の地価が下がって再開発が開始され，1990 年代後半には都心回帰の動きが見られるようになった。

5 解答：②

現在最も依存率の高い一次エネルギーは**石油**で，日本は石油の大半を輸入でまかなっている。

6 解答：②

エネルギー源の中心が石炭から石油に変わったエネルギー革命は，日本では **1960 年代**に起こった。

7 解答：③

1970 年代の**オイルショック**は，世界的な脱石油の流れをつくった。

8 解答：④

2011 年の東北地方太平洋沖地震に伴う**福島第一原子力発電所の事故**により，日本国内の原子力発電のほとんどが稼働を停止した。現在は再生可能エネルギーや新エネルギーによる発電が模索されている。